

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年2月10日

【四半期会計期間】 第136期第3四半期(自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)

【会社名】 サカティンクス株式会社

【英訳名】 SAKATA INX CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 森田 耕太郎

【本店の所在の場所】 大阪市西区江戸堀一丁目23番37号

【電話番号】 06(6447)5823

【事務連絡者氏名】 経理部長 宮田 明夫

【最寄りの連絡場所】 東京都文京区後楽一丁目4番25号 日教販ビル内
サカティンクス株式会社 東京本社

【電話番号】 03(5689)6602

【事務連絡者氏名】 東京総務部長 淵野 昌弘

【縦覧に供する場所】 サカティンクス株式会社 東京本社
(東京都文京区後楽一丁目4番25号 日教販ビル内)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第135期 第3四半期 連結累計期間	第136期 第3四半期 連結累計期間	第135期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (百万円)	92,217	103,062	123,098
経常利益 (百万円)	5,368	7,472	6,809
四半期(当期)純利益 (百万円)	3,111	4,764	5,588
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	3,460	8,698	9,177
純資産額 (百万円)	39,816	53,364	45,533
総資産額 (百万円)	94,373	114,927	99,649
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	51.43	78.74	92.35
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	41.3	45.3	44.7

回次	第135期 第3四半期 連結会計期間	第136期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	25.36	33.28

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため記載していません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社に異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当社グループの決算期は、一部を除き、海外子会社が12月、当社および国内子会社が3月であるため、当第3四半期については、海外子会社（インドを除く）が2013年1～9月、国内連結会社およびインド子会社は2013年4～12月を対象として、記載しております。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間の世界経済は、米国では金融緩和策縮小への動きがあり、欧州には景気を持ち直しの兆しがみられ、成長ペースが鈍化しているアジアも概ね堅調に推移するなど、全体として弱い回復が続きました。日本経済は、デフレ脱却に向けた経済対策や金融政策に対する期待感から円安・株高が進み、景気は緩やかに回復してきているものの、海外景気の下振れリスクや消費税率引き上げによる影響が懸念されるなど先行きは依然として不透明な状況で推移しました。

このような状況の中で、当社グループはコア事業である印刷インキ事業において、アジアを中心とした各拠点での拡販に注力するとともに、環境に配慮した高機能・高品質製品や地域密着型製品の開発、TPM活動の水平展開による低コスト化に取り組みました。また、印刷インキ全般の主要原材料価格が依然として高水準で推移していることから、グループ全体でコスト削減を推し進めました。一方、機能性材料事業では、インクジェットインキをはじめとして、トナー、カラーフィルター用顔料分散液などの開発・拡販に取り組みました。さらには、持続的成長を果たすために、国内の全社的な生産・物流体制の再構築および今後の機能性材料事業への対応を目的として、滋賀の新工場建設を進めました。

売上高は、アジアを中心に印刷インキの拡販が進んだことに加え、円安による為替換算の影響を大きく受けたことから、1,030億6千2百万円（前年同期比11.8%増加）となりました。

利益面では、印刷インキの拡販や徹底したコスト削減が寄与したことに加え、為替換算の影響も受けたことなどから、営業利益は65億8百万円（前年同期比44.8%増加）、経常利益は74億7千2百万円（前年同期比39.2%増加）となりました。四半期純利益は、投資有価証券評価損が減少したことから、47億6千4百万円（前年同期比53.1%増加）となりました。

セグメントの業績を示すと、次の通りであります。

(単位：百万円)

	売上高				営業利益			
	前期	当期	増減額	増減率	前期	当期	増減額	増減率
印刷インキ・ 機材（日本）	44,727	44,900	172	0.4%	3,024	2,708	316	10.4%
印刷インキ （アジア）	13,803	18,304	4,500	32.6%	624	1,728	1,104	177.0%
印刷インキ （北米）	20,826	25,527	4,700	22.6%	320	1,133	812	253.4%
印刷インキ （欧州）	4,354	5,555	1,200	27.6%	63	94	31	49.3%
機能性材料	4,320	5,086	765	17.7%	73	433	359	488.8%
報告セグメント計	88,033	99,373	11,340	12.9%	4,106	6,097	1,991	48.5%
その他	9,154	9,068	85	0.9%	238	189	48	20.5%
調整額	4,970	5,379	409		151	221	69	
合計	92,217	103,062	10,844	11.8%	4,496	6,508	2,012	44.8%

印刷インキ・機材（日本）

パッケージ関連では、飲料、食品関係の堅調な需要に支えられ、フレキシインキ、グラビアインキともに前年同期を上回りました。印刷情報関連では、需要の低迷の影響を受けて、新聞インキ、オフセットインキともに前年同期を下回りました。機材につきましては、低調でありました。これらの結果、売上高は449億円（前年同期比0.4%増加）となりました。

利益面では、コスト削減に取り組んだものの、原材料高の影響を受けたことや機材販売が低調であったことなどから、営業利益は27億8百万円（前年同期比10.4%減少）となりました。

印刷インキ（アジア）

主力であるパッケージ関連のグラビアインキは、需要拡大を背景として全般的に堅調に推移しました。また、印刷情報関連であるオフセットインキの拡販も進みました。売上高は、円安による為替換算の影響を受けた結果、183億4百万円（前年同期比32.6%増加）となりました。

利益面では、販売数量の増加やコスト削減が寄与したことに加え、為替換算の影響を受けたことから、営業利益は17億2千8百万円（前年同期比177.0%増加）となりました。

印刷インキ（北米）

主力のパッケージ関連では、高機能インキを拡販し、北米や中南米などでの需要の高まりを背景として、フレキシインキ、グラビアインキおよびメタルインキがそれぞれ順調に推移しました。印刷情報関連であるオフセットインキは、メディアの多様化による需要減の影響を受けて、低調でありました。売上高は、円安による為替換算の影響を受けた結果、255億2千7百万円（前年同期比22.6%増加）となりました。

利益面では、生産効率化などによるコスト削減が寄与したことに加え、為替換算の影響を受けたことなどから、営業利益は11億3千3百万円（前年同期比253.4%増加）となりました。

印刷インキ（欧州）

欧州債務問題の長期化により、景気が低迷する中、主力であるパッケージ関連のフレキシインキ、グラビアインキは拡販が進み、全体としては堅調に推移しました。売上高は、円安による為替換算の影響を受けた結果、55億5千5百万円（前年同期比27.6%増加）となりました。

利益面では、販売コストが増加したものの、販売数量の増加が寄与したことなどから、営業利益は9千4百万円（前年同期比49.3%増加）となりました。

機能性材料

デジタル印刷分野では、インクジェットインキは欧米での販売が伸び悩んだものの、日本での販売は堅調に推移した結果、全体としては前年同期を上回りました。また、トナーも前年同期を上回りました。画像表示材料分野では、市場環境が厳しい中、カラーフィルター用顔料分散液は伸び悩みました。売上高は、円安による為替換算の影響を受けた結果、50億8千6百万円（前年同期比17.7%増加）となりました。

利益面では、売上高の増加が寄与したことに加え、のれんの償却額の負担がなくなったことなどから、営業利益は4億3千3百万円（前年同期比488.8%増加）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、滋賀工場建設に伴う有形固定資産の増加、時価評価による投資有価証券の増加および売上債権の増加に加え、円安による為替換算の影響を受けたことなどから、前連結会計年度末比152億7千8百万円(15.3%)増加の1,149億2千7百万円となりました。

負債は、設備投資に伴う未払金の増加や仕入債務の増加に加え、円安による為替換算の影響を受けたことなどから、前連結会計年度末比74億4千7百万円(13.8%)増加の615億6千3百万円となりました。

純資産は、利益剰余金や為替換算調整勘定の増加などにより、前連結会計年度末比78億3千万円(17.2%)増加の533億6千4百万円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

1) 当面の対処すべき課題の内容

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はありません。

2) 株式会社の支配に関する基本方針

当社は、平成20年6月27日開催の当社第130期定時株主総会において、当社株券等の大量買付行為への対応策(買収防衛策)(以下「旧プラン」といいます。)を導入いたしておりましたが、平成23年6月29日開催の当社第133期定時株主総会において、字句・表現の変更等、旧プランの内容を一部変更の上(以下、変更後のプランを「本プラン」といいます。)、有効期間を平成26年6月開催予定の当社第136期定時株主総会終結の時までとする本プランを継続いたしました。(本プランの詳細につきましては、平成23年5月12日付プレスリリース「当社株券等の大量買付行為への対応策(買収防衛策)の継続に関するお知らせ」(当社ホームページ：<http://www.inx.co.jp/pdf/00000036.pdf>)をご覧ください。)

(1) 当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針(以下「基本方針」といいます。)

当社は、安定的かつ持続的な企業価値の向上が当社の経営にとって最優先課題と考え、その実現に日々努めております。したがって、当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の経営理念、企業価値の様々な源泉及び当社を支えるステークホルダーとの信頼関係を十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を中長期的に確保・向上させる者でなければならないと考えております。

しかしながら、事前取締役会の賛同を得ずに行われる株券等の大量買付けの中には、その目的等から見て企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、株主の皆様に株式の売却を事実上強制するおそれがあるもの、対象会社の取締役会が代替案を提案するための必要十分な時間や情報を提供しないもの、対象会社が買収者の提示した条件よりも有利な条件をもたらすために買収者との協議・交渉を必要とするものなど、対象会社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を毀損するおそれをもたらすものも想定されます。

当社は、このような当社の企業価値や株主の皆様の共同の利益に資さない株券等の大量買付けを行う者が、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であり、このような者による株券等の大量買付けに対しては、必要かつ相当な対抗措置を採ることにより、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を確保する必要があると考えております。

(2) 当社の基本方針の実現に資する特別な取組み

当社の基本方針の実現に資する特別な取組みは次の通りであります。

当社の企業価値の源泉についての把握

企業価値向上のための取組み

コーポレート・ガバナンスの強化に向けた取組み

なお、上記 につきまして当社グループは、平成24年4月から平成27年3月までの3年間を対象とする中期経営計画として「中期経営計画 2014」を策定しております。

本中期経営計画では、「未来につなげる基盤創り」のために経営基盤の強化を基本課題とし、印刷インキ・機材事業、機能性材料事業の拡大を戦略課題として、その実現に取り組んでおります。本中期経営計画の詳細につきましては、平成24年2月15日付で公表いたしました「新中期経営計画策定に関するお知らせ」をご参照下さい。

当社は、上記の課題を着実に実行していくことが当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益の確保・向上につながるものと考えております。

(3) 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

本プランは、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を確保・向上させることを目的として、導入されたものでありますが、その概要は次の通りであります。

当社株式について、議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為又は公開買付け（以下「大量買付行為」といいます。）を行おうとする者（以下「大量買付者」といいます。）に対しては、当社取締役会が、事前に必要な情報の提供を求め、当該大量買付行為についての評価、検討、大量買付者との買付条件等に関する交渉又は株主の皆様への代替案の提案等を行うとともに、大量買付者が本プランの手続きを遵守しない場合や、当社に回復し難い損害をもたらすことが明らかであると認められる行為であり、対抗措置を採ることが相当であると判断する場合は、当社取締役会からの独立性が高い社外監査役及び社外有識者等のみで構成する独立委員会の勧告を最大限尊重した上で、大量買付行為に対して、新株予約権の無償割当てその他当該時点において相当と認められる対抗措置を発動するものとします。また、本プランにおいては、当社取締役会が実務上適切と判断した場合には、対抗措置の発動にあたり、株主総会を開催し、対抗措置発動の是非の判断を株主の皆様のご意思に委ねることとしております。

(4) 上記の各取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

基本方針の実現に資する特別な取組み（上記(2)）について

上記(2)「当社の基本方針の実現に資する特別な取組み」に記載した各取組みは、当社の企業価値ひいては株主の皆様のご共同の利益を継続的かつ持続的に確保・向上させるための具体的取組みとして策定されたものであり、基本方針の実現に資するものであります。

したがって、これらの各取組みは、基本方針に沿い、当社の株主の皆様のご共同の利益を損なうものではなく、当社の会社役員のご地位の維持を目的とするものではありません。

基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み(上記(3))について

() 当該取組みが基本方針に沿うものであること

本プランは、大量買付行為が行われる際に、当該大量買付行為に応じるべきか否かを株主の皆様が判断し、あるいは当社取締役会が代替案を提案するために必要十分な情報や時間を確保したり、株主の皆様のために大量買付者等と交渉を行うことなどを可能とすることにより、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を確保するための取組みであり、基本方針に沿うものであります。

() 当該取組みが当社の株主の皆様の共同の利益を損なうものではなく、また、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないこと

当社は、以下の理由により、本プランは、当社の株主の皆様の共同の利益を損なうものではなく、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないと考えております。

ア 買収防衛策に関する指針において定める三原則を完全に充足していること等

イ 株主の皆様の意思の重視と情報開示

ウ 当社取締役会の恣意的判断を排除するための仕組み

a. 独立性の高い社外者(独立委員会)の判断の重視

b. 合理的な客観的要件の設定

エ デッドハンド型やスローハンド型買収防衛策ではないこと

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発費の総額は16億8千5百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	144,000,000
計	144,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年2月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	62,601,161	62,601,161	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、 権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる 株式 (単元株式数：100株)
計	62,601,161	62,601,161		

(注) 平成25年11月8日開催の取締役会において、単元株式数の変更および定款の一部変更について決議し、平成25年12月2日を効力発生日として、単元株式数を1,000株から100株に変更しております。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日		62,601,161		7,472		5,574

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成25年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,091,000		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 60,351,000	60,351	同上
単元未満株式	普通株式 159,161		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	62,601,161		
総株主の議決権		60,351	

(注) 1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式784株が含まれております。

2 平成25年11月8日開催の取締役会において、単元株式数の変更および定款の一部変更について決議し、平成25年12月2日を効力発生日として、単元株式数を1,000株から100株に変更しております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) サカタインクス株式会社	大阪市西区江戸堀 一丁目23番37号	2,091,000		2,091,000	3.34
合計		2,091,000		2,091,000	3.34

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,861	4,986
受取手形及び売掛金	² 38,197	² 42,074
商品及び製品	6,290	7,377
仕掛品	792	775
原材料及び貯蔵品	4,934	5,552
その他	1,583	2,855
貸倒引当金	436	500
流動資産合計	57,222	63,123
固定資産		
有形固定資産	22,894	28,649
無形固定資産		
のれん	96	83
その他	1,061	1,202
無形固定資産合計	1,158	1,286
投資その他の資産		
投資有価証券	16,750	20,184
その他	2,275	2,203
貸倒引当金	651	519
投資その他の資産合計	18,373	21,868
固定資産合計	42,427	51,804
資産合計	99,649	114,927
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	² 22,294	² 25,312
短期借入金	5,788	5,887
1年内返済予定の長期借入金	5,017	4,050
未払費用	2,932	3,149
未払法人税等	1,048	386
賞与引当金	1,068	573
その他	2,443	7,568
流動負債合計	40,592	46,928
固定負債		
長期借入金	7,835	7,931
退職給付引当金	2,876	2,950
資産除去債務	71	72
その他	2,740	3,680
固定負債合計	13,522	14,635
負債合計	54,115	61,563

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,472	7,472
資本剰余金	5,672	5,672
利益剰余金	38,084	42,021
自己株式	640	641
株主資本合計	50,589	54,524
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,891	3,111
繰延ヘッジ損益	2	6
為替換算調整勘定	7,969	5,545
その他の包括利益累計額合計	6,079	2,428
少数株主持分	1,024	1,268
純資産合計	45,533	53,364
負債純資産合計	99,649	114,927

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
 【四半期連結損益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	92,217	103,062
売上原価	71,524	78,580
売上総利益	20,693	24,482
販売費及び一般管理費	¹ 16,197	¹ 17,973
営業利益	4,496	6,508
営業外収益		
受取利息	47	45
受取配当金	258	260
持分法による投資利益	679	739
その他	344	313
営業外収益合計	1,330	1,358
営業外費用		
支払利息	325	246
その他	132	147
営業外費用合計	457	394
経常利益	5,368	7,472
特別利益		
投資有価証券売却益	6	6
特別利益合計	6	6
特別損失		
投資有価証券評価損	353	0
有形固定資産除却損	31	-
特別損失合計	385	0
税金等調整前四半期純利益	4,990	7,479
法人税、住民税及び事業税	1,450	2,019
法人税等調整額	313	415
法人税等合計	1,764	2,435
少数株主損益調整前四半期純利益	3,226	5,043
少数株主利益	114	278
四半期純利益	3,111	4,764

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,226	5,043
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	212	1,228
為替換算調整勘定	64	1,567
持分法適用会社に対する持分相当額	85	853
繰延ヘッジ損益	-	4
その他の包括利益合計	233	3,654
四半期包括利益	3,460	8,698
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,369	8,416
少数株主に係る四半期包括利益	90	282

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	
(1) 連結の範囲の重要な変更	INX Digital International Co.は、連結子会社であるINX International Ink Co.に吸収合併されたことにより消滅したため、第1四半期連結会計期間より、連結の範囲から除外しております。
(2) 持分法適用の範囲の重要な変更	前連結会計年度末において持分法非適用関連会社であったETERNAL SAKATA INX CO.,LTD.及びSHENZHEN SAKATA INX CO.,LTD.は重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より、持分法の適用範囲に含めております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

連結子会社以外の会社の金融機関からの借入等に対する経営指導念書の差入れ及び連結子会社以外の会社のリース契約等に対する債務保証を行っております。

(偶発債務)

(単位：百万円)

前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
716	669

なお、債務保証には他社が再保証している債務保証が含まれており、上記金額は再保証額を控除して記載しております。

(再保証額)

(単位：百万円)

前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
33	30

2 四半期連結会計期間末日満期手形

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
受取手形	1,074	988
支払手形	313	351

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、上記の四半期連結会計期間末日満期手形が期末残高に含まれております。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額 (単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
運賃及び荷造費	2,841	3,078
給与及び手当	5,343	6,041
貸倒引当金繰入額	87	70
賞与引当金繰入額	298	303
退職給付費用	311	323
研究開発費	1,559	1,685

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。
 なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む)
 及びのれんの償却額は、次の通りであります。

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
減価償却費	1,769	1,886
のれんの償却額	144	19

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	423	7	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金
平成24年11月7日 取締役会	普通株式	423	7	平成24年9月30日	平成24年12月3日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	423	7	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金
平成25年11月8日 取締役会	普通株式	484	8	平成25年9月30日	平成25年12月6日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	印刷 インキ ・機材 (日本)	印刷 インキ (アジア)	印刷 インキ (北米)	印刷 インキ (欧州)	機能性 材料	計				
売上高										
外部顧客への売上高	44,697	13,736	19,472	4,293	4,248	86,449	5,768	92,217		92,217
セグメント間の内部 売上高又は振替高	29	67	1,354	61	72	1,584	3,385	4,970	4,970	
計	44,727	13,803	20,826	4,354	4,320	88,033	9,154	97,188	4,970	92,217
セグメント利益	3,024	624	320	63	73	4,106	238	4,345	151	4,496

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、日本における化成事業、ディスプレイサービス事業及び色彩関連機器事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額151百万円には、セグメント間取引消去289百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用137百万円が含まれております。全社費用は、主に関係会社に対する役員提供費用であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結累計期間において、固定資産に係る重要な減損損失の認識、のれんの金額の重要な変動及び重要な負ののれん発生益の認識はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	印刷 インキ ・機材 (日本)	印刷 インキ (アジア)	印刷 インキ (北米)	印刷 インキ (欧州)	機能性 材料	計				
売上高										
外部顧客への売上高	44,874	18,241	23,960	5,503	4,996	97,575	5,486	103,062		103,062
セグメント間の内部 売上高又は振替高	25	63	1,566	51	90	1,797	3,581	5,379	5,379	
計	44,900	18,304	25,527	5,555	5,086	99,373	9,068	108,442	5,379	103,062
セグメント利益	2,708	1,728	1,133	94	433	6,097	189	6,287	221	6,508

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、日本における化成事業、ディスプレイサービス事業及び色彩関連機器事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額221百万円には、セグメント間取引消去353百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用131百万円が含まれております。全社費用は、主に関係会社に対する役員提供費用であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結累計期間において、固定資産に係る重要な減損損失の認識、のれんの金額の重要な変動及び重要な負ののれん発生益の認識はありません。

(1 株当たり情報)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	51円43銭	78円74銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がないため記載していません。

2. 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
四半期純利益(百万円)	3,111	4,764
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	3,111	4,764
普通株式の期中平均株式数(千株)	60,513	60,509

2 【その他】

平成25年11月8日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次の通り決議いたしました。

- (1) 中間配当による配当金の総額 484百万円
- (2) 1株当たりの金額 8円00銭
- (3) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 平成25年12月6日

(注) 平成25年9月30日現在の株主名簿に記録された株主または登録株式質権者に対し、支払いを行っております。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 2月10日

サカティンクス株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松 山 和 弘 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柴 崎 美 帆 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているサカティンクス株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、サカティンクス株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。